

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第5号）」について送付しますので、業務の参考にしてください。

令和7年産麦作情報（第5号）

1. 気象の概要（3月1半旬～4半旬）

- ◆平均気温…平年よりやや高く推移した（平年比+0.4℃）。
- ◆降水量 …平年よりかなり多く推移した（平年比156%）。
- ◆日照時間…平年に比べかなり短かった（平年比66%）

2. 管内麦類の生育状況

▼佐城管内の調査結果（3月21日調査）

場所	品種名	播種日	苗立ち数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
鍋島	シロガネコムギ	11/24	124	35.7	654	7.7	41.0
北川副	さちかおり	11/24	214	44.5	956	9.2	42.1
川副	はるか二条	12/10	145	28.9	838	6.8	47.2

- 小麦・大麦ともに、低温・乾燥の影響で草丈が低く、茎数は「さちかおり」など一部の品種を除き少ない傾向となっている。
- 11月下旬播種の大麦では、出穂期を迎えている圃場が見られる。
- 11月20日頃に播種された小麦や12月上旬に播種された大麦は、現在、止葉が抽出中で出穂期は平年と比べやや遅くなると予測される。

参考 農試作況データ（3月19日調査）

◎農試作況試験における麦類の生育（3月19日調査）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	38.1	878	8.8	42.0	[気象] 2月28日～3月20日まで ◆平均気温…平年並み (平年差+0.5℃) ◆日照時間…少ない(平年比64%) ◆降水量…多い(平年比153%) [生育] ◆草丈 全品種・全作期において、過去10年間で最も低い。 ◆茎数 12/20播「シロガネコムギ」、12/2播「はるか二条」は平年よりやや少なく、その他は平年より多い。 ◆葉齢 11/20播「シロガネコムギ」は平年並み、その他は少ない(-1.0～-2.5L)。 ◆葉色 「シロガネコムギ」は両作期とも淡く、「サチホゴールド」は両作期ともやや濃い。12/2「はるか二条」はやや濃く、12/20「はるか二条」は濃い。 ◆生育ステージ 茎立ち期についても全品種平年に比べて9日～15日遅く、生育が遅れている(次頁参照)。
		平年	61.1	676	8.9	44.7	
		平年比(差)	62	130	-0.1	-2.7	
	12/10	本年	23.2	648	7.0	43.6	
		平年	50.1	681	8.0	47.4	
		平年比(差)	46	95	-1.0	-3.8	
サチホゴールド	12/2	本年	31.1	1274	7.6	40.1	
		4ヵ年平均	61.7	1034	10.1	39.5	
		前年比(差)	50	123	-2.5	+0.6	
	12/10	本年	29.8	1144	7.4	42.1	
		平年	52.7	1035	8.9	41.4	
		平年比(差)	57	111	-1.5	+0.7	
はるか二条	12/2	本年	32.2	924	7.7	43.6	
		4ヵ年平均	60.5	944	10.0	43.0	
		前年比(差)	53	98	-2.3	+0.6	
	12/10	本年	32.3	1005	7.1	46.6	
		7ヵ年平均	55.5	890	9.0	43.3	
		平年比(差)	58	113	-1.9	+3.3	

◎ 本年の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	2/3	3/1	3/5	未
		前年	1/26	2/11	2/13	3/24
		平年	2/2	2/19	2/19	3/30
		平年差	+1	+10	+14	—
	12/10	本年	3/5	3/17	3/19	未
		前年	2/14	2/20	2/24	4/1
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5
		平年差	+12	+16	+15	—
サチホゴールド	12/2	本年	2/13	3/12	3/14	未
		前年	1/29	2/16	2/20	3/28
		平年	2/6	2/23	3/2	3/29
		平年差	+7	+17	+12	—
	12/10	本年	2/18	3/13	3/16	未
		前年	2/2	2/20	2/20	3/31
		平年	2/12	3/3	3/5	4/3
		平年差	+6	+10	+11	—
はるか二条	12/2	本年	2/13	3/8	3/10	未
		前年	1/29	2/16	2/20	3/29
		平年	2/6	2/22	3/4	3/28
		平年差	+7	+14	+9	—
	12/10	本年	2/18	3/10	3/12	未
		前年	2/1	2/20	2/20	3/31
		平年	2/11	2/27	2/28	4/1
		平年差	+7	+11	+12	—

3. 今後の管理

○穂揃期追肥（実肥）

- ・タンパク含有率向上のため、穂揃期追肥を施用する。特にパン用小麦は必ず施用する。
- ・穂揃期追肥が施用されないと、タンパク（%）および容積重（g/L）が低下し、品質評価基準値を満たさない恐れがある。

葉色	用途	品種	窒素量 (kg/10a)	実肥の施用量 (kg/10a)	
				硫安の場合	尿素の場合
葉色に関わらず 必ず施用	パン	はる風ふわり	5	25	12.5
		さちかおり	7	30	15
	めん	チクゴイズミ	3	15	7.5
		シロガネコムギ	2	10	5
葉色が淡い場合 に施用 注1)	ビール	サチホゴールド	2	10	5

注1) 出穂期前頃の SPAD 値がシロガネコムギで 40 以下、ビール大麦で 39 以下の場合。

注2) 穂揃期追肥は、出穂期の 3 日後が効果的。それ以降に施用する場合は増量が必要。

＜液肥利用の留意点＞

- ・肥料を溶かす際は、直接タンクに入れると溶けない場合があるため、事前にお湯等で溶かし、タンクに入れると濃度ムラがなくなる。
※硫安による液肥施用は難しいため、液肥利用の際は尿素を用いる。
- ・乗用管理機での施用の場合、赤かび病防除との同時施用も可能。ただし施用時期が遅くなるため、3～4割追加した量が必要になる。
- ・液肥施用後、芒や葉先などに肥料焼けがみられるが、収量や品質への影響は小さい。

○排水対策

- 排水対策は、分けつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- 本年は、現在まで積算降水量は少ないものの、今後は降水量が増える時期を迎えるとともに、局地的な降雨も予想されることから、土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
- トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。

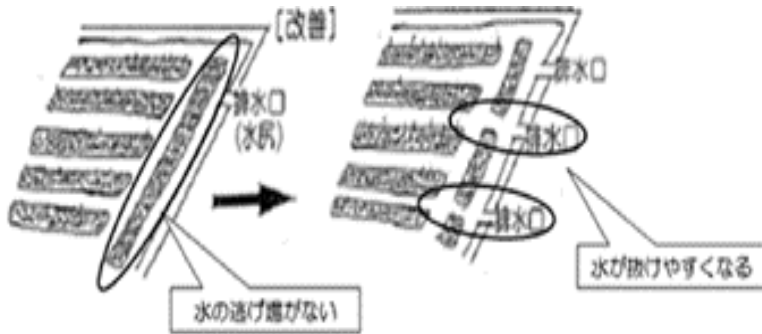


写真 1. うね溝と排水口の整備例

○病害虫防除

(1) オオムギ網斑病

- 今後、気温の上昇に伴い病斑の進展が予想されるので、各圃場の発生状況に注意が必要である。
- 本病が多発すると登熟に影響し減収・品質低下の原因となる為、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、出穂期～穂揃期の防除適期に防除を実施する。

※ チルト乳剤は 1 回しか使用できないので注意する。



写真 2. オオムギ網斑病

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000 倍	60~150L	収穫 21 日前まで	1 回	散布

網斑病の防除適期

麦種	全茎数の 40~50% が出穂した日		全茎数の 80% が出穂した日 (出穂期から概ね 2~3 日後)				
	出穂期	穂揃期	+5 日	+10 日	+15 日	+20 日	+25 日
大麦	←—————→						

注 1) 出穂期とは全茎数の 40~50% が出穂、穂揃期とは全茎数の 80% が出穂した日。

注 2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

散布時期が遅れると、チルト乳剤でも効果が劣るため、防除適期の出穂期（全茎数の 40~50% が出穂した日）を中心に防除を実施する。

(2) コムギ黄斑病

- ・降雨などの多湿条件と 10℃以上の気温条件が、一次伝染および二次伝染を助長する。
- ・前作が大豆の圃場では、水稻の圃場より顕著に発生が多くなる傾向にある。また、発病には品種間差異があり、シロガネコムギは耐病性があるが、チクゴイズミ、ミナミノカオリ、はる風ふわり、さちかおりで発病が確認される。
- ・本病が上位葉まで進展すると、収量・品質に影響を及ぼす恐れがあるため、**出穂期までに薬剤防除を徹底する。**
(登録薬剤：チルト乳剤、ワークアップフロアブルなど)

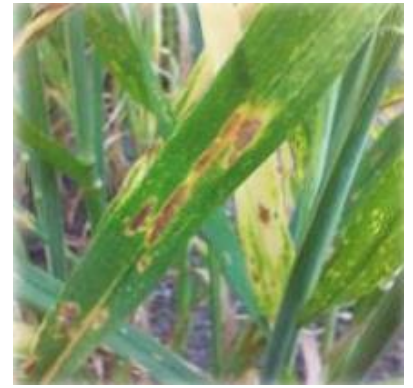


写真3. コムギ黄斑病

(3) 赤かび病

- ・感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨（20～27℃）で経過すると激発する。
- ・防除は、下表を参考に必ず圃場の生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。

麦種	予想される赤かび病の発生量	全茎数の40～50%が出穂した日		出穂期		穂揃期		全茎数の80%が出穂した日(出穂期から概ね2～3日後)		
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日	+30日		
小麦	少～並発生 並～多発生	開花始め～開花期								
大麦	少～並発生 並～多発生	葯殻抽出期								

注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。

注3) 大麦の葯殻抽出期とは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。

注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。

① 小麦の防除時期

○パン用小麦(ミナミノカオリ、はる風ふわり、さちかおり)

- ・1回目の防除時期：開花最盛期(出穂期の約7～10日後)
- ・2回目の防除時期：1回目防除の10～20日後

○シロガネコムギ、チクゴイズミ

- ・1回目の防除時期：開花最盛期(出穂期の約7～10日後)
- ※多発生時は2回目防除を実施：1回目防除の10～20日後



写真4. 小麦開花期

② 大麦の防除時期

○はるか二条

- ・1回目の防除時期：^{やくがら}葯殻抽出始め(出穂期の約2週間後)
- ・2回目の防除時期：1回目防除の7日後

○サチホゴールド

- ・1回目の防除時期：葯殻抽出始め(出穂期の約2週間後)
- ※多発生時は2回目防除を実施：1回目防除の7日後

注意：大麦でトップジンM水和剤を使用する場合は、収穫30日前までの使用となっているので注意する。

大麦の芒(のげ)の下から黒い葯殻が出る時期に防除

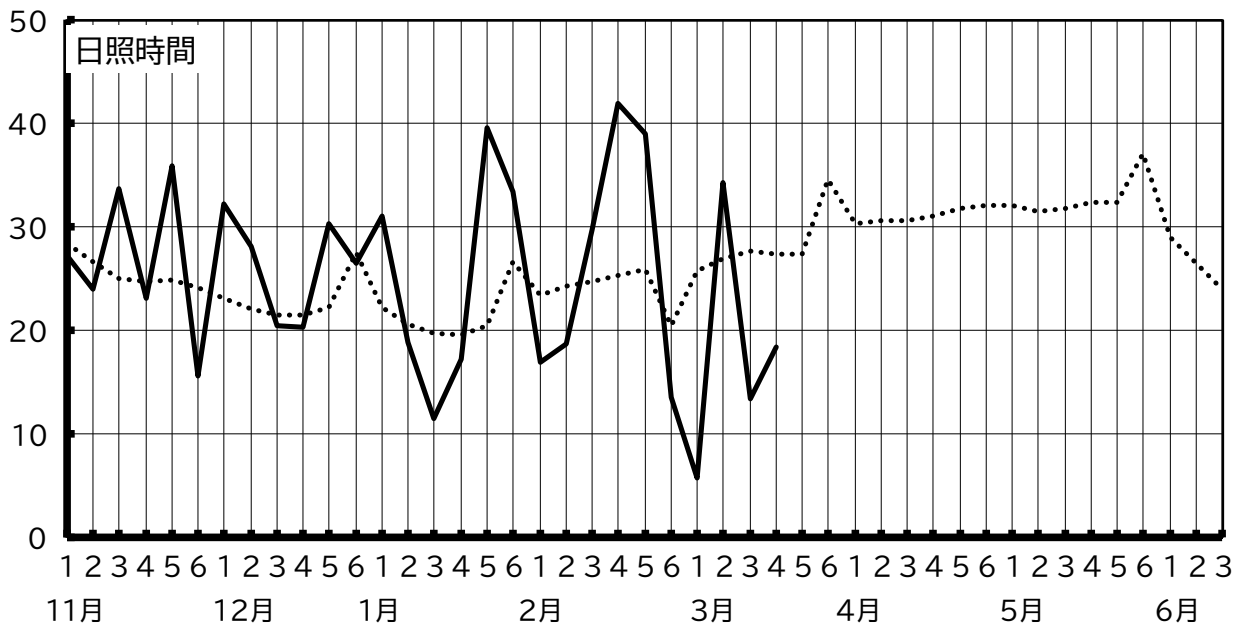
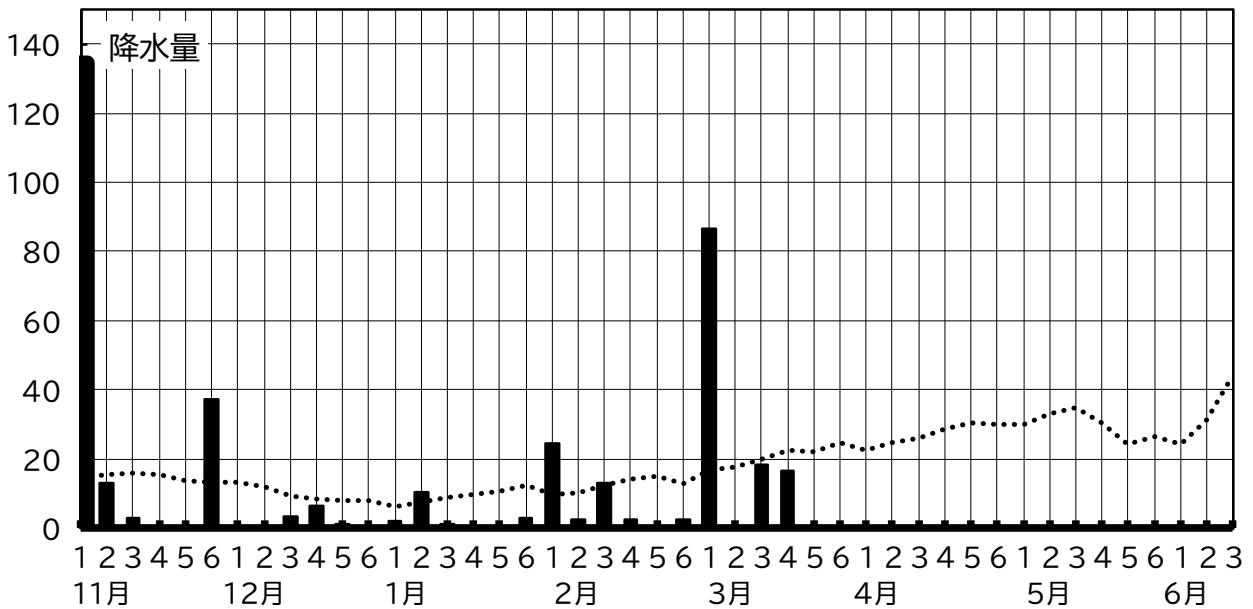
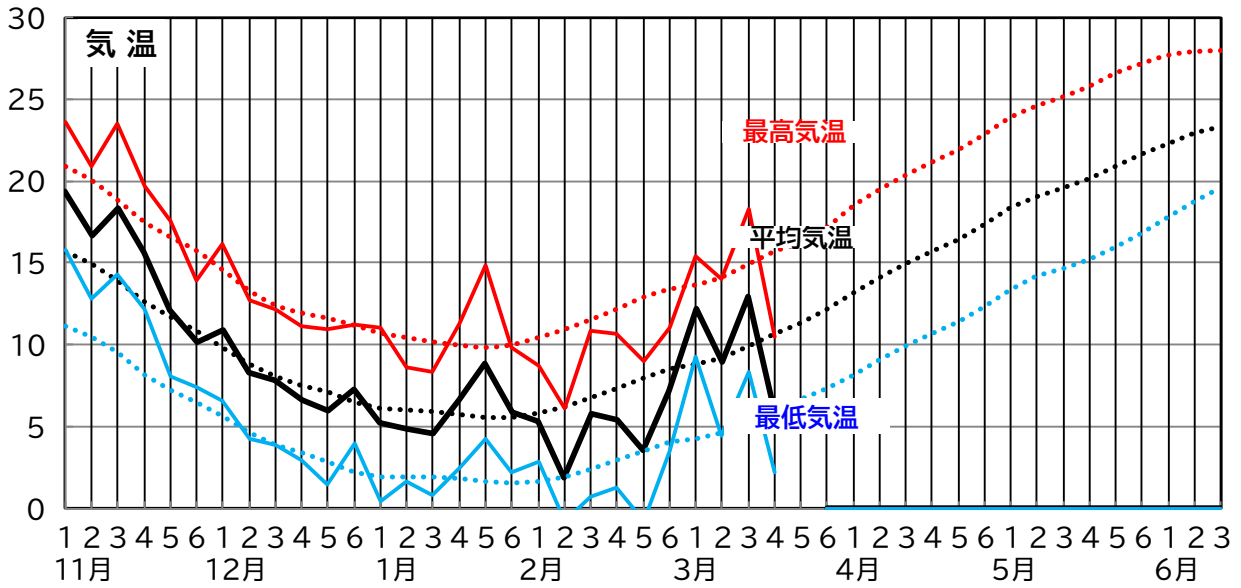


写真5. 大麦葯殻抽出

令和7年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値